

令和6年3月13日

千葉県農林総合研究センター長

I 向こう1か月の予報

発生量及び発生時期は平年との比較で表す。予想発生量は「多」「やや多」「並」「やや少」「少」で表している。また予報の根拠の(+)は多発要因、(-)は少発要因であることを示す。並[発生なし]は平年並で、今年発生がないことを示す。

なお、「並」とは平年値を中心にして40%の度数に入る幅、「やや多」「やや少」は「並」の外側20%の度数に入る幅、「多」「少」は上記3者の外側10%の度数に入る幅である。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イ	イネミズゾウムシ	少	2月越冬量：少(-)	<ul style="list-style-type: none"> 箱施用剤で薬剤防除する。
	イネクロカメムシ	やや少	2月越冬量：やや少(-)	<ul style="list-style-type: none"> 成虫は5月下旬から水田に侵入し始める。加害を受けるほ場では、6月末まで効果が認められる箱施用剤の利用を検討する。 平成30年度試験研究成果普及情報「イネクロカメムシの発生生態と効果的な箱施用剤」 https://www.pref.chiba.lg.jp/ninaite/shikenkenkyuu/documents/h30_37.pdfも参照。
ネ	ヒメトビウンカ	多	2月越冬量：多(+)	<ul style="list-style-type: none"> イネ縞葉枯ウイルスを媒介する。 前年、縞葉枯病の発生が見られたほ場では、箱施用剤で薬剤防除する。 P5「IIこれから注意を要する病害虫」も参照。
	スクミリンゴガイ	やや多	冬季気温 (12～2月の気象庁アメダス千葉毎正時データの平均値) ：高(+)	<ul style="list-style-type: none"> 千葉県 HP、安全農業推進課のジャンボタニシ被害防止対策 https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/applesnail.html及びチラシ「均平で被害軽減!! 千葉県のジャンボタニシ対策」 https://www.pref.chiba.lg.jp/annou/nouyaku/documents/r5-zyantani-tirashi.pdfも参照。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
冬 春 ト マ ト	うどんこ病	少	3月上旬発生量：少（－） 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 被害葉は施設外に持ち出し、適切に処分する。
	コナジラミ類	やや多	3月上旬発生量 オンシツコナジラミ ：多（＋） タバココナジラミ ：並 [発生なし] 2月黄色粘着トラップ誘殺数 ：多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 黄色粘着トラップの設置等で発生を的確に把握し、初期から薬剤防除する。 タバココナジラミについては、黄化葉巻病を媒介する。黄化葉巻病発病株は抜き取り、適切に処分する。 黄化葉巻病については令和5年度病害虫発生予察注意報第2号「トマト黄化葉巻病の発生に注意」も参照。 施設内外の除草等で耕種的防除に努める。 令和4年度病害虫発生予報第8号P4「Ⅱこれから注意を要する病害虫」も参照。
春 キ ヤ ベ ツ	菌核病	並	3月上旬発生量：やや少（－） 気象予報：気温並か高（＋） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> 発病株は速やかに抜き取ってほ場外に持ち出し、適切に処分する。 薬剤防除は株元まで薬剤が届くよう、ていねいに行う。
	アブラムシ類	多	3月上旬発生量：やや多（＋） 気象予報：気温並か高（＋） 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 葉裏に薬剤が十分付着するよう、ていねいに散布する。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
イチゴ	うどんこ病	並	3月上旬発生量：並 気象予報：日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 被害葉や被害果は施設外に持ち出し、適切に処分する。
	アブラムシ類	やや多	3月上旬発生量：やや多（+） 2月黄色粘着トラップ誘殺数：並 気象予報：気温並か高（+） 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。 葉裏に薬剤が十分付着するよう、ていねいに散布する。
	アザミウマ類	並	3月上旬発生量：並 2月黄色粘着トラップ誘殺数：やや多（+） 気象予報：気温並か高（+） 日照時間並	
	ハダニ類	並	3月上旬発生量：やや少（-） 気象予報：気温並か高（+） 日照時間並	
ナシ	黒星病	並	越冬菌密度 秋型病斑発病葉率：やや多（+） 罹病芽率：やや少（-） 気象予報：降水量並	
ビワ	果樹カメムシ類	多	チャバネアオカメムシ早期発生予測モデル：多（+）	<ul style="list-style-type: none"> カメムシ類の発生量は、年次変動が激しく、地域差もあるため、地域の発生情報等も参考にする。 予測モデルについては、<u>令和5年度病害虫発生予報第6号P4「Ⅱその他の情報」</u>も参照。

作物名	病害虫名	予想発生量	予報の根拠	防除上の注意事項
カーネーション	アザミウマ類	並	2月下旬発生量 ：並 2月黄色粘着トラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温並か高（+） 日照時間並	・ 施設内外の雑草は適切に処分し、ほ場周辺に放置しない。
	ハダニ類	並	2月下旬発生量 ：並 [発生なし] 気象予報：気温並か高（+） 日照時間並	・ 早期発見に努め、発生初期から薬剤防除する。
野菜・花き共通	灰色かび病	並	3月上旬発生量 冬春トマト：並 イチゴ：少（-） 気象予報：気温並か高（+） 降水量並 日照時間並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見に努め、発生初期に防除する。 ・ 被害葉や被害果は施設外に持ち出し、適切に処分する。 ・ <u>令和3年度病害虫発生予報第8号P5「Ⅱこれから注意を要する病害虫」</u>も参照。
	コナガ	並	2月下旬発生量 露地ストック ：並 [発生なし] 3月上旬発生量 春キャベツ ：並 [発生なし] 2月フェロモントラップ誘殺数 ：並 気象予報：気温並か高（+） 降水量並	<ul style="list-style-type: none"> ・ 早期発見に努め、発生初期に防除する。 ・ 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。

II これから注意を要する病害虫

イネ縞葉枯病の多発が予想されています

縞葉枯病は、ウイルスを保毒したヒメトビウンカが吸汁することでイネに感染する。移植後の生育初期に感染すると葉に黄緑色～黄白色の斑紋が縞状に生じ、新葉が巻いて垂れ下がって枯死することにより茎数が減少する。生育中期に感染すると穂の出すくみや奇形となり穂数が減少する。

ヒメトビウンカは、越冬世代が4月上中旬頃にムギほ場などに侵入し、第1世代が増殖する。第1世代が6月上中旬頃、水田に飛来し、吸汁、増殖する。

ヒメトビウンカの越冬虫数が多く、ウイルス保毒虫率が高く、発生時期が早いと縞葉枯病の発生が多いと考えられる。

今年はヒメトビウンカの越冬虫数が過去7年で最も多く（図1）、保毒虫率が平年並であるが高い水準であり（図2）、発生時期が平年より早いと予測される（図3）ため、前年に縞葉枯病が多発したほ場では注意が必要である。

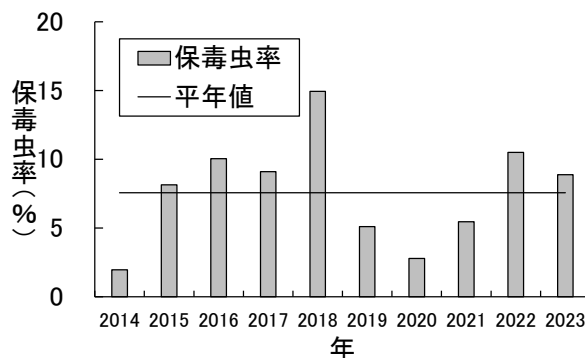
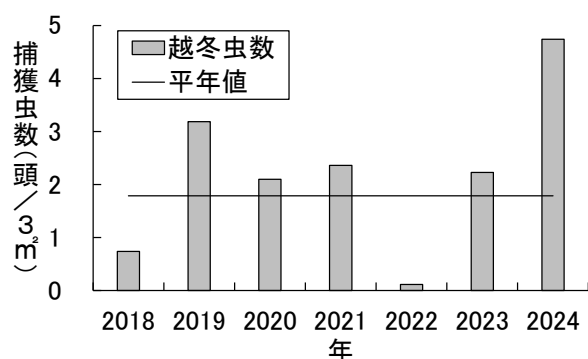


図1 ヒメトビウンカ越冬虫数

- 注1) バキュームブロワーにより畦畔等の雑草地を0.3m×10m吸い取り捕虫した
- 2) 調査月は2月
- 3) 平年値は2018～2023年の平均値

図2 ヒメトビウンカ保毒虫率

- 注1) 簡易エライザ(ELISA)法により検定した
- 2) 調査地点は東葛飾、香取、山武地域の4地点
- 3) サンプル採取月は11月
- 4) 平年値は2014～2022年の平均値

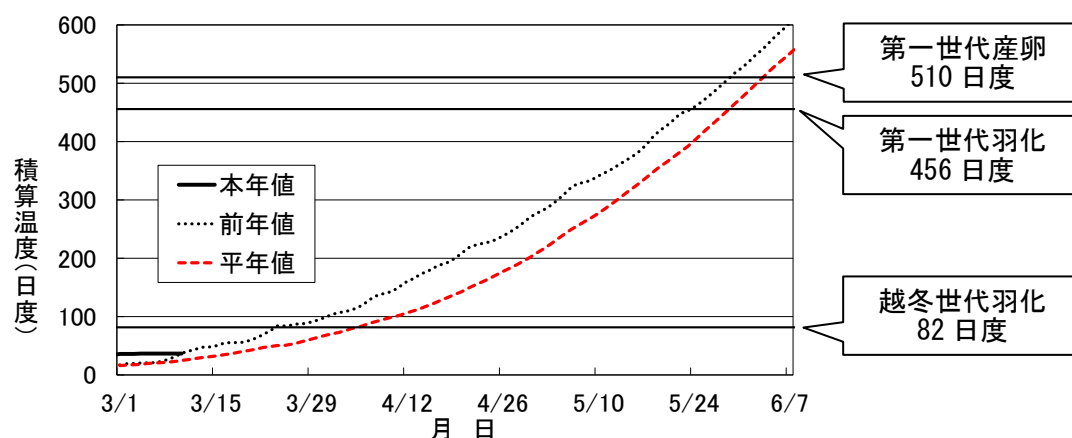


図3 ヒメトビウンカの発生時期予測

- 注1) 発育零点を11℃として、アメダス千葉地点の毎正時気温を1月1日から積算した
- 2) 1月1日時点で越冬世代幼虫が4.5齢で越冬すると仮定して、各生育ステージとなる積算温度(日度)を設定した

〈防除法〉

前年に縞葉枯病が多発したほ場で栽培する場合、表を参考にトリフルメゾピリム、フルピリミン等を含む剤を育苗箱処理する。

表 ウンカ類又はヒメトビウンカの主な育苗箱処理剤

薬剤名	使用量	使用時期	使用方法
ゼクサロン パディート 箱粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり 50g	は種前	育苗箱の床土又は覆土に均一に混和する。
	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり 50g	は種時覆土前 ～移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
	高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり50～100g)		
	1kg/10a	移植時	側条施用
フルスロツ トル箱粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり 50g	は種時覆土前 ～移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
リディアE V箱粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり 50g	移植3日前～ 移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
D r . オリ ゼリディア 箱粒剤	育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり 50g	移植7日前～ 移植当日	育苗箱の上から均一に散布する。
	高密度には種する場合は1kg/10a(育苗箱(30×60×3cm、使用土壌約5L)1箱当たり50～100g)	移植3日前～ 移植当日	
	1kg/10a	移植時	側条施用

参考資料

○主要病害虫の発生状況

巡回調査結果（水稲：2月中旬、野菜：3月上旬、果樹：2月、花き：2月下旬）

作物名（調査地域）	病害虫名	調査項目	調査結果			備考
			本年値	平年値	前年値	
イネ（県内全域）	イネミズゾウムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.01	1.33	0.06	
	イネゾウムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.12	0.22	0.03	
	イネクロカメムシ	畦畔0.25m越冬成虫数	0.01	0.07	0.06	
	ヒメトビウンカ	畦畔3m吸い取り成幼虫数	4.74	1.79	2.23	
	ツマグロヨコバイ	畦畔3m吸い取り成幼虫数	2.23	1.42	0.37	
冬春トマト （海匠、長生）	萎凋症	萎凋株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	うどんこ病	発病株率（%）	0.00	2.12	2.40	
	灰色かび病	発病株率（%）	0.80	3.12	1.20	
		果実発病度	0.00	0.21	0.00	
	すすかび病	発病株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	モザイク病	発病株率（%）	0.00	0.00	0.00	
	黄化葉巻病	発病株率（%）	0.10	0.20	0.00	
	オンシツコナジラミ	成虫寄生株率（%）	1.20	0.04	0.00	
	タバココナジラミ	成虫寄生株率（%）	0.00	0.16	0.40	
	ハモグリバエ類	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.16	0.00	
	コナジラミ類	黄色粘着トラップ誘殺数	2.46	0.42	0.58	
アザミウマ類	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00		
春キャベツ（海匠）	菌核病	発病株率（%）	0.00	1.60	0.80	
	黒腐病	発病度	0.00	0.12	0.00	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率（%）	3.20	0.96	1.60	
	コナガ	10株当たり寄生幼虫蛹数	0.00	0.19	0.00	
イチゴ （海匠、山武、安房）	うどんこ病	発病株率（%）	0.00	1.39	1.18	
		発病果率（%）	0.00	0.12	0.03	
	灰色かび病	発病株率（%）	0.00	2.67	2.59	
		発病果率（%）	0.00	0.34	0.21	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率（%）	6.75	2.95	5.88	
		黄色粘着トラップ誘殺数	1.76	4.87	8.47	
	ハスモンヨトウ	幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00	
アザミウマ類	成幼虫寄生株率（%）	0.75	1.04	0.71		
		黄色粘着トラップ誘殺数	6.54	5.44	3.85	
	ハダニ類	雌成虫寄生株率（%）	16.00	30.32	7.29	
ナシ（県内全域）	黒星病（秋型病斑）	発病率（%）	2.74	1.53	1.97	前年10月調査
	黒星病	罹病芽率（%）	0.14	1.41	0.29	
	輪紋病	発病度	0.00	0.02	0.00	
	卵越冬ハダニ類	産卵数	0.00	0.45	0.00	
	ナシチビガ	越冬蛹数	0.00	0.01	0.00	
カーネーション （安房）	萎凋症	発病株率（%）	0.80	0.76	0.00	
	立枯病	発病株率（%）	0.00	0.88	0.80	
	アブラムシ類	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.26	0.00	
	アザミウマ類	被害株率（%）	8.80	9.30	0.80	
		黄色粘着トラップ誘殺数	3.00	2.89	0.71	
	ヨトウムシ類	被害株率（%）	0.00	0.00	0.00	
ストック（安房）	ハダニ類	雌成虫寄生株率（%）	0.00	0.72	0.00	
	コナガ（露地）	被害株率（%）	2.40	13.63	1.33	
	コナガ（露地）	幼虫寄生株率（%）	0.00	1.31	0.00	
	コナガ（施設）	被害株率（%）	6.40	1.63	0.00	
	コナガ（施設）	幼虫寄生株率（%）	3.20	0.00	0.00	
	アブラムシ類（露地）	成幼虫寄生株率（%）	0.00	1.31	0.00	
アブラムシ類（施設）	成幼虫寄生株率（%）	0.00	0.00	0.00		

*黄色粘着トラップ誘殺数：438cm²の黄色粘着トラップに30日間に誘殺された個体数

トラップ月間日平均誘殺数（2月）

種類	病害虫名	トラップ設置場所	誘殺数（頭/日）			備考
			本年値	平年値	前年値	
性フェロモン	コナガ	海匠、安房	0.2	0.1	0.2	

○気象予報

3月7日気象庁発表

関東甲信地方における向こう1か月間の確率(%)

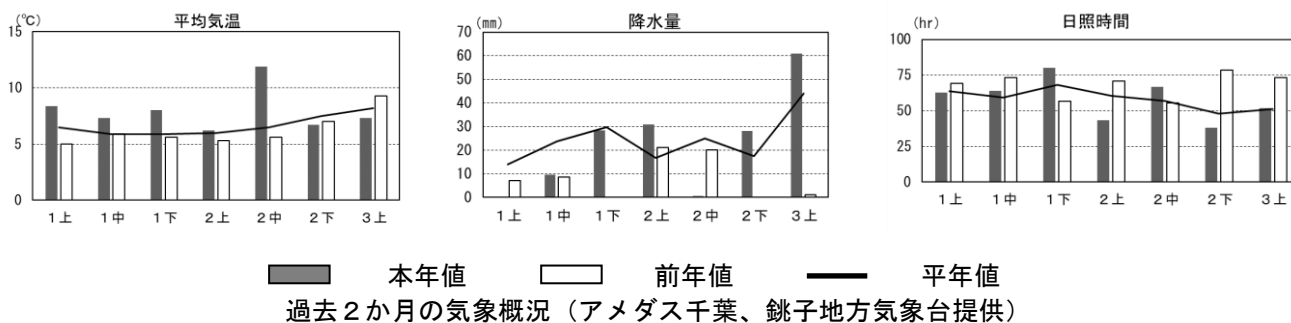
要素	低い・少ない	平年並	高い・多い
気温	20	40	40
降水量	30	40	30
日照時間	30	30	40

向こう1か月間の各気象要素の平年値

(3月9日~4月8日)

要素	千葉	銚子	館山
気温(°C)	10.8	10.7	11.2
降水量(mm)	110.3	142.9	160.1
日照時間(hr)	174.6	177.4	172.8

出典：気象庁ホームページ



農薬は適正に使用しましょう。無登録農薬の使用はできません。

- 農薬は、農薬取締法に基づいて、使用できる農作物の種類、適用病害虫、希釈倍数、収穫前日数、総使用回数などが定められています。
- 登録番号のない薬剤は、農薬として使用できません。登録農薬には必ず登録番号が記載されています(記載例 農林水産省登録第〇〇〇号)。
- 農薬はラベルをよく読んで適正に使用しましょう。
- 飛散しないよう工夫して散布しましょう。
- 農薬を散布したら必ず記帳するようにしましょう。
- タンクやホースは洗いもれがないようきれいに洗っておきましょう。

・病害虫発生予察情報はインターネットでもご覧いただけます。

<https://www.pref.chiba.lg.jp/lab-nourin/nourin/boujo/>

・次回の発行予定は4月17日です。なお、注意報等の臨時情報は、逐次発行されます。

・薬剤の選定については、最新の農薬登録情報を確認してください。

<https://pesticide.maff.go.jp/>

問合せ先

千葉県農林総合研究センター病害虫防除課

〒266-0014 千葉市緑区大金沢町180番地1

TEL 043(291)6077 FAX 043(226)9107

E-mail cafrc-bojo@mz.pref.chiba.lg.jp

